第６回全国在宅医療会議 ＷＧ	資料
平 成 ３ ０ 年 ３ 月 ７ 日	２－１

重点分野に関する取組の中長期目標策定について

１．重点分野に関する取組の中長期目標の設定について

○　高齢化の進展や地域医療構想による病床の機能分化･連携により、在宅医療の需要が増加すると見込まれている 2025 年に向けて、重点分野に関する取組を進めていくにあたり、各団体が連携し、計画的に重点分野に取り組む必要がある。

○　そのために、各団体で共通の中長期目標（2020 年、2025 年目途）を設定すること、また、共通の中期目標を達成するために、各団体で、短期（各年度ごと）の取組を掲げ、いつまでに、何を取り組むか等を具体化し、とりまとめることとした。

○　重点分野に関する取組の中長期目標を設定するにあたり、各団体からの課題を整理し、それに対しての目標を設定し取り組むこととした。

２．論点

【中間目標の設定について】

○　団体の課題より7つの中間目標（案）を整理したが、分類や文言等について適正なものとなっているか。

○　中間目標を設定するにあたり、全国在宅医療会議が目指すべき方向性を示した方が良いのではないか。

【中間目標を用いた今後の方向性について】

○　中間目標を達成するために、各団体は中間目標に沿った形で、今後の団体活動方針、目標を立案し、実行していくということでよいか。

○　また、中間目標への取組、成果に関する自己評価を１年に１度、全国在宅医療会議にて報告してはどうか。

【国民への普及啓発について】

○　国民への普及啓発については、各団体とも直接国民に対しての取組は少なかった。団体の枠を越えて、取り組むべき重要な課題であるため、国民への普及啓発については、小グループを構成し具体的な取組について議論してはどうか。

全国在宅医療会議が目指すべき方向性

団体より提出された

現に実施している取組

新たに感じている課題

収集し、背景にある課題を分類

- ・地域の病院と在宅医療との水平連携が不足している
- ・かかりつけ医の在宅医療への参画等、在宅医療推進を支える体制が不十分である
- ・医師会等関係団体と行政との連携が進んでいない地域もある
- ・行政担当者が在宅医療について知らないことがある
- ・在宅医療に取り組む専門職の連携が不足している
- ・情報共有に関する整備（ICT等）ができていない
- ・新たな技術が在宅医療分野で活用できていない
- ・市民が在宅医療について知らないことがある
- ・市民の力を活かせていない
- ・在宅医療について発信できていないことがある
- ・在宅医療に関わる職種も在宅医療について知らないことがある
- ・在宅医療に取り組む専門職種が不足している
- ・知識・技術を習得するコンテンツが整備されていない
- ・在宅医療の教育・研修を受ける機会や体験する機会がない
- ・在宅医療に取り組む専門職の知識が不足している
- ・在宅医療の有効性が調査されていない
- ・在宅医療における研究データが整理されていない
- ・在宅医療における実践・事例を共有する場がない
- ・在宅医療において専門職が行う標準的な指標が未整備

【中間目標】

- 地域の病院と在宅医療との協働体制の構築
- 行政と関係団体との連携
- 関係団体同士の連携
- ICT等最新技術の活用
- 国民への在宅医療に関する普及・啓発
- 在宅医療に関わる関係者への普及・啓発
- 在宅医療実践に関する研究及び教育

【重点項目】

- 在宅医療に関する医療連携モデルの構築
- 在宅医療に関する普及啓発モデルの構築
- 在宅医療に関するエビデンスの構築

全国在宅医療会議が目指すべき方向性（案）

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
第6次医療計画	第7次医療計画						第8次医療計画	
第6期介護保険事業(支援)計画	第7期介護保険事業(支援)計画			第8期介護保険事業(支援)計画			第9期介護保険事業(支援)計画	

中間見直し

中間目標策定に向けた課題整理

在宅医療に関する医療連携モデルの構築

- 在宅医療推進に向けた地域の病院と在宅医療との協働体制の構築
- 在宅医療推進に向けた行政と関係団体との連携
- 在宅医療推進に向けた関係団体同士の連携
- 在宅医療推進に向けたICT等最新技術の活用

在宅医療に関する普及啓発モデルの構築

- 国民への在宅医療に関する普及啓発
- 在宅医療に関わる関係者への普及啓発

在宅医療に関するエビデンスの構築

- 在宅医療実践に関する研究及び教育